

著作権学習の授業が児童の道徳的規範意識に及ぼす影響

小川雅弘（静岡県浜松市立瑞穂小学校）

村松浩幸（三重大学教育学部技術教育講座准教授）

堀田龍也（独立行政法人メディア教育開発センター准教授）

概要：本研究は、他者の権利や思いを尊重することに重点を置いた著作権尊重の授業実践が、児童の道徳的規範意識に及ぼす影響を検証することを目的とした。授業実践前後で校内生活における行動の意識調査および知的財産権についての意識を調査した。調査の結果、著作権尊重の授業実践により、「著作権の興味、関心」「著作権の意識化」「著作権の社会的役割」の向上に効果があったと共に、自らの生活態度の反省を促し、集団や社会とのかかわりや、他の人とかかわりなどの道徳的規範意識の向上にも寄与したことが確認できた。

キーワード：情報モラル 著作権 道徳的規範意識 ネット社会 知的財産権

1 問題

情報教育の中で情報モラルの指導は重要な教育課題となっている。情報モラルの指導は、的確な判断力を養う礎になる教育であり、ICT 活用とのバランスを考え、学校をあげて体系的に取り組むことが大切であると指摘されている（文科省）。

情報モラルの指導方法として、道徳的規範知識、情報技術の知識、合理的判断の知識（以下、「3種の知識」）を組み合わせる指導が提案されている（松田 1999）。玉田らは、道徳的規範意識について、道徳教育の成果を活かす観点から、道徳の学習指導要領の目標を検討し、

- A) 自分に関すること：思慮、節度
 - B) 他人とのかかわりに関すること：思いやり、礼儀
 - C) 社会とのかかわりに関すること：正義、規範
- を情報モラル判断に直接関連する知識と定義している（玉田ら 2004）。また情報倫理意識と道徳的規範意識は、相互に影響しあって向上する可能性が示されている（三宅 2006）。しかし、現行の道徳の指導要領には、情報社会での生活倫理について学ぶようには示されておらず、情報モラルの学習と道徳の学習が切り離されて指導される場合が多いと考える。

ネット社会について学ぶ教材を見ると、情報の取り扱い方や危険性の周知、対処法などを学ぶようになっていることが多い。ネット社会の学習でも、日常社会に生かされるように学ぶためには、常に「人」を意識することから集団社会とのかかわり方を学んでいくことが大切であると考えられる。

一方、児童の学校生活での活動の様子を見てみると、学校イベントのポスター制作や、修学旅行等のしおり作成時には、キャラクターのコピーを描き学区に掲示したり、しおり内にホームページからダウンロードした写真を無断で掲載したりと、あまり著作権を意識せずに活動している。

そこで、他者の権利や思いを尊重する著作権の学習をすることで、「人」を意識するようになり、自らの生活の振り返りなど道徳的規範意識の向上にもつながり、情報モラルの学習と道徳の学習を関連させることができるのではないかと考えた。しかし、情報倫理意識の学習が、道徳的規範意識に及ぼす効果についての実践研究は、散見のところ見あたらない。

2 目的

他者の権利や思いを尊重することに重点を置いた

表1 校内生活における行動調査の質問項目と学習指導要領の道徳の指導内容との関連

質問項目	道徳の指導内容
1. 休み時間は廊下で友だちと遊んでも構わない	集団や社会とのかかわり
2. 廊下や道路で友だちと話しながら歩く時は横に広がってしまってもしかたない	集団や社会とのかかわり
3. 車が来ていない時に左右を良く確認すれば横断歩道でなくても道を回ってもかまわない	集団や社会とのかかわり
4. 担当の掃除場所にはたくさんの方がいるからたまには自分がサボってもかまわない	集団や社会とのかかわり
5. 教室にゴミがたくさん落ちていても誰かが掃除してくれるから自分がしなくても良い	集団や社会とのかかわり
6. 自分が話したいときや聞きたいことがある時には相手が他の人と話していても発言して良い	他者とのかかわり
7. 自分が忘れ物したときには誰かから借りればよいからあまり気にしないで良い	自分自身に関すること
8. いつも意地悪な子が困っている時には手助けしなくてもしかたない	他者とのかかわり
9. いつも自分時意地悪な子にはたまたま意地悪をしてもかまわない	集団や社会とのかかわり
10. 名前を呼んで頼まれなければ先生や友だちの手伝いをしなくてもよい	他者とのかかわり

著作権尊重の授業実践が、児童の道徳的規範意識に及ぼす影響を検証する。

3 方法

これまで著作権尊重について学んだことの無い、小学校6年生31名に対して、2007年2月に1時間の授業を実施した。授業では、知的財産権の学習内容のうち、「知的財産を尊重する態度」「知的財産制度の知識・理解」に重点を置き授業を行った。

その際、自らがこれまで行ってきた、学校イベントのポスター作りや、修学旅行のしおり作りの実践と学習内容を結びつけながら、授業を展開した。他者の権利や思いを尊重する大切さを強調することで、道徳の指導内容である「集団や社会とのかかわり」を考えさせ、道徳的規範意識の向上をねらった。

文化庁の「楽しく学ぼうみんなの著作権」(http://deneb.nime.ac.jp/contents/school_chil_d/index.htm)を教材として利用し実践を行った。

授業では、以下の学習活動を行った。

1. 身近なものから著作権マークを探した。
2. デジタルコンテンツを視聴しながら、自分ならばどうするのかワークシートに記述した。
3. 著作権を守るようになるには、何が大切なのかワークシートに記述した。

授業実践を行うに当たり、以下の手順で研究した。

- ① 授業前に、校内生活場面における行動並びに知的財産権に関する質問紙調査を行う。
- ② 著作権を事例に、他者の権利や思いを尊重する

ことに中心おいた授業を行う。

- ③ 授業後、校内生活場面における行動並びに知的財産権に関する質問紙調査を行う。

- ④ 授業前後の質問紙調査結果を比較検討し考察する。

授業の前後で行った、校内生活での行動に関する質問紙調査の質問項目と道徳の指導内容との関連を、表(1)に示した。この質問項目として取り上げた項目は、筆者が児童の校内生活を観察し、問題があると思われる行動について作成した。

著作権に関する質問紙調査は、村松らの用いた36項目の知的財産権の意識についての質問紙を用いたが(村松ら2007)、その中から、今回の授業内容である著作権に関する項目12項目を取り上げた。取り上げた12項目の中で、質問4・9・11・16・18・36は他者の権利や思いを尊重することに関連すると考える。

4 結果

校内生活場面における行動に関する調査結果の授業前後の比較は、表(2)の通りであった。

この調査の質問項目では、全ての項目において、逆説的に質問項目を作成した。そのため、回答に対しては、逆転項目として換算し集計した。著作権に関する調査結果の比較は、表(3)の通りであった。

表2 校内生活に関する授業前後の調査結果比較

質問項目	事前		事後		比較 変化
	Mean	SD	Mean	SD	
集団や社会とのかかわり					
1. 休み時間は廊下で友だちと遊んでも構わない	2.5	1.1	3.1	0.9	0.6
2. 廊下や道路で友だちと話しながら歩く時は横に広がってしまってもしかたない	2.9	0.9	3.4	0.6	0.5
3. 車が来ていない時に左右を良く確認すれば横断歩道でなくても道を回ってもかまわない	2.9	1.1	3.4	0.8	0.5
4. 担当の掃除場所にはたくさんの方がいるからたまには自分がサボってもかまわない	2.4	1.0	3.5	0.7	1.1
5. 教室にゴミがたくさん落ちていても誰かが掃除してくれるから自分がしなくても良い	2.5	1.1	3.2	0.9	0.7
9. いつも自分時意地悪な子にはたまたま意地悪をしてもかまわない	2.0	0.9	2.8	1.0	0.8
他者との関わり					
6. 自分が話したいときや聞きたいことがある時には相手が他の人と話していても発言して良い	3.7	0.5	3.6	0.5	-0.1
8. いつも意地悪な子が困っている時には手助けしなくてもしかたない	2.7	1.0	2.9	1.0	0.2
10. 名前を呼んで頼まれなければ先生や友だちの手伝いをしなくてもよい	2.9	0.8	3.1	0.8	0.2
自分自身に関すること					
7. 自分が忘れ物したときには誰かから借りればよいからあまり気にしなくて良い	3.4	0.6	3.3	0.8	-0.1
	n=28		n=28		

表3 著作権に関する授業前後の調査結果比較

質問項目	事前		事後		比較 変化
	Mean	SD	Mean	SD	
著作権への興味・関心					
* 28) 著作権に関するニュースがあってもあまり興味がないと思いますか。	3.3	1.3	2.8	1.1	-0.5
26) 著作権についてもっと知りたいと思いますか	2.4	1.0	3.3	1.4	0.8
著作権の意識化					
2) 生活の中で著作権を意識することがありますか	2.9	0.9	3.8	1.1	0.8
31) 身の回りに著作権を持つものはたくさんあると思いますか	3.9	1.0	4.3	1.1	0.4
* 16) 調べてまとめたり、コピーしたりするときに著作権に注意していないと思いますか	2.9	1.1	2.8	1.2	-0.1
9) CDやDVDを使う時に、著作権を意識することがありますか。	3.3	1.3	3.8	1.1	0.5
* 18) 自分のホームページにアニメのキャラクターを使うことは問題ないと思いますか	2.9	1.3	2.3	1.5	-0.6
著作権の社会的役割					
* 30) 著作権がなくても自分の生活は困らないと思いますか	3.1	1.0	2.4	1.3	-0.7
36) 友達のアイデアを改良して使う場合も許可をとる必要があると思いますか	3.9	1.3	4.0	1.3	0.1
11) 友達の作った作品は大切にしていると思いますか	3.9	1.1	3.8	1.2	-0.1
24) 著作権は世の中にとっては重要だと思いますか	2.3	1.2	2.1	1.3	-0.2
4) 友達のちょっとしたアイデアもそのまま使ってはいけないと思いますか	3.5	1.3	4.1	1.1	0.6
* 逆転項目	n=28		n=28		

著作権に関する調査の中で、質問項目 16・18・28・項目全てにおいて、伸びが見られた。もっとも大きい伸びを示したのは、質問4の清掃活動に関する質問であり、平均値で1.1の伸びが見られた。

校内生活場面における行動の事前調査では、著作権(以下、同じ)に関する事前調査で高い値を示した項目は、質問11・質問31・質問36で、平均値でそれぞれ3.9であった。もっとも低い値を示した項目は、質問24で、平均値で2.3であった。著作権に関する調査では、質問11・質問24で伸びが見られなかったが、それ以外の質問については伸びが見られた。

事後調査では、集団や社会とのかかわりに関する授業で事例として取り上げた、ホームページ作成

や友達のアイデアの利用に関する項目では、大きな伸びが見られた。

5 考察

本授業実践では、アニメーションによるコンテンツを視聴し、その内容と児童のこれまでの生活場面を結びつけたり、振り返りをさせたりできるように、教師が、児童が作成したポスターやしおりなどの事例とコンテンツ内容が同様であることを話し支援した。

著作権に関する調査結果では、質問 11・36 に関しては、事前調査から高い数値を示しており、もともと友達の作品やアイデアは大切しなくてはならないという意識があるといえる。

質問 16 が事後調査でも伸びを示さなかったのは、授業の中で、調べ学習など授業の中での利用では、コピーしても良いことを教えたためと考えられる。

著作権の意識化に関する項目で伸びが見られ、著作権への興味関心や社会的役割についても、大きな伸びを見せた項目があったということから、著作権尊重の意識は向上したようである。

以上のことから、本実践が「著作権の興味、関心」「著作権の意識化」「著作権の社会的役割」の向上に効果があったことが示された。

一方、生活場面における行動に関する調査結果でも、集団や社会とのかかわりに関する項目で伸びが見られたと言うことは、コンテンツを視聴し、自らの生活場面と結びつけながら解説を受けることにより、著作権を尊重しなければいけないということを知ったことが影響していると考えられる。

質問 4 で高い伸びを示したのは、著作権の学習を通して、他者の立場を考える必要を学んだことにより、自分が良ければと言う考えにより、それを補っている他の立場の友達がいるということを知ったことだと考える。

著作権尊重の学習は、その権利を有するものの考えや思いを尊重するということであり、自分中心の考え方により逆の立場になる他者がいることを知る学習であるともいえる。今回、著作権尊重の学習に

より、情報倫理意識について学んだことが、自分たちの生活を振り返り、自分がよければと言う考えに陥っていなかったか、他者を傷つけることになっていなかったと考え、道徳的規範意識の向上につながったのではないかと考える。

6 結論

本研究は、他者の権利や思いを尊重することに重点を置いた著作権尊重の授業実践が、児童の道徳的規範意識に及ぼす影響を検証することを目的とした。

事前事後で校内生活における行動の意識調査および著作権についての意識を調査した。調査の結果、著作権尊重の授業実践により、「著作権の興味、関心」「著作権の意識化」「著作権の社会的役割」の向上に効果があったと共に、自らの生活態度の反省を促し、集団や社会とのかかわりや、他の人とかかわりなどの道徳的規範意識の向上にも寄与したことが確認できた。

参考文献

- 文部科学省、情報モラル指導等サポート事業報告 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/05/07052403.htm) (19年度5月)
- 松田稔樹 (1999), 「情報モラル」をどうとらえて教育するのか, 日本教育工学会第15回全国大会講演論文集, 1999, 17-18
- 玉田和恵・松田俊樹 (2004), 「3種の知識」による情報モラル指導法の開発, 日本教育工学会論文誌 28 (2), 79-88
- 三宅元子 (2006), 中学・高校・大学生の情報倫理意識と道徳的規範意識の関係, 日本教育工学会論文誌 30 (1), 51-59
- 学習指導要領, 小学校学習指導要領 (平成10年12月告示, 15年12月一部改正)
- 村松浩幸・堀田達也・佐藤正寿 (2007) 小学校「情報」テキストを用いた知的財産権学習の実践と評価, 日本知財学会第五回年次学術研究発表会論文集:312-315